2017.2.13

■Focus Gold 4th Edition 数学Ⅰ+A

本書には，次のところに誤りがございます。深くお詫び申し上げますと共に，下記のように訂正の上，ご使用いただきますようお願いいたします。

（株）新興出版社啓林館編集部

＜本体＞

ページ	箇所	原　文	訂正文
p.240 例題 141	解答 13 行目	$0<\theta<\dfrac{\pi}{2}$	$0^\circ<\theta<90^\circ$
p.459 例題 252	(2)の解答 3 行目	$7n+6$ と $3n+1$	$7n$ と $3n+1$

また，454 ページのコラム「素数は無限に存在する」につきましては，下記のように，証明をより厳密なものに変更いたします。

ページ	箇所	訂正文
p.454 コラム	8〜16 行目	(証明の内容を下記のように変更) 素数が有限の n 個しか存在しないと仮定し，その最大の素数を p とする。 また，N をすべての素数の積に 1 を加えたもの， すなわち，$N=(2\times3\times5\times7\times11\times\cdots\cdots\times p)+1$ とすると， $2\times3\times5\times7\times11\times\cdots\cdots\times p$ は最小の素数 2 から最大の素数 p のどの素数で割っても割り切れるので，N はどの素数で割っても 1 余る数である。 そこで，次の（ⅰ），（ⅱ）が考えられる。 （ⅰ） N 自体が素数である。 （ⅱ） N は素数でなく，p より大きな素数を因数にもつ。 （例）$p=13$ のとき， $N=2\times3\times5\times7\times11\times13+1=30031=59\times509$ であり， N は素数でなく，13 より大きい素数 59，509 を因数にもつ。 しかし，（ⅰ），（ⅱ）のいずれでも，p より大きい素数が必ず存在することとなる。 したがって，素数は有限個であるという仮定に矛盾するので，素数は無限に存在する。

A－ア